

東洋炭素株式会社

2019年12月期第2四半期 決算説明資料

2019年8月

東洋炭素株式会社

2019年12月期第2四半期 決算概要

ポイント1

売上高は、単結晶シリコン製造用をはじめとするエレクトロニクス分野の着実な需要に支えられ、前期1Q計上の中国高温ガス炉（HTR-PM）向け売上分（約32億円）除けば、前年同期と同水準を確保。計画に対してもほぼオンライン。

ポイント2

利益面は、為替が円安に推移したことや、人件費が想定を下回ったことなどにより、当初想定（24億円）を上回る結果に。一部製品における値上げも奏功。

ポイント3

米中貿易摩擦の激化や日韓の輸出管理問題などの影響を勘案し、通期予想を修正。売上高については、各用途総じてダウンの見込み。利益については、コストを上期並みの水準に抑制し、下期の期初想定水準（26億円）を堅持。

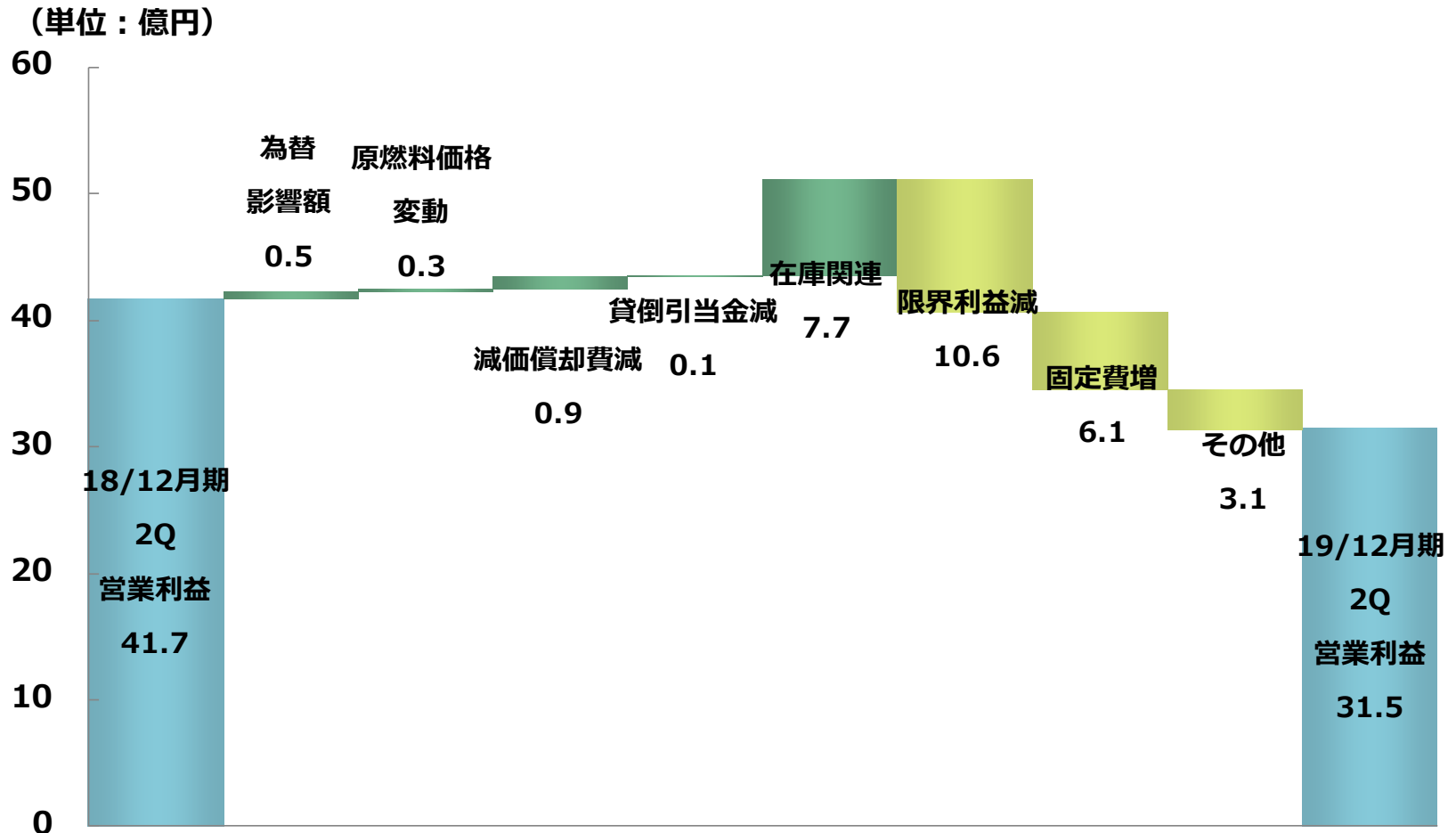
2. 2019年12月期第2四半期業績 および 2019年12月期予想

(単位：百万円)	18/12月期		19/12月期			
	2Q累計	通期	2Q累計	前年同期比	通期予想	前期比
売上高	22,056	41,132	19,141	▲ 2,914 / ▲ 13.2 %	37,000	▲ 4,132 / ▲ 10.0 %
営業利益	4,179	7,009	3,158	▲ 1,020 / ▲ 24.4 %	5,800	▲ 1,209 / ▲ 17.3 %
(売上高営業利益率)	18.9%	17.0%	16.5%		15.7%	
経常利益	4,092	7,057	3,066	▲ 1,026 / ▲ 25.1 %	5,800	▲ 1,257 / ▲ 17.8 %
(売上高経常利益率)	18.6%	17.2%	16.0%		15.7%	
親会社株主に 帰属する当期 (四半期)純利益	3,055	4,910	2,303	▲ 751 / ▲ 24.6 %	4,000	▲ 910 / ▲ 18.5 %
1株当たり 当期(四半期) 純利益	146円11銭	234円52銭	109円83銭		190円72銭	
為替レート	108.7円/\$ 131.6円/€ 17.1円/CNY	110.4円/\$ 130.4円/€ 16.7円/CNY	110.1円/\$ 124.3円/€ 16.2円/CNY		(下期) 105円/\$ 125円/€ 15.5円/CNY	

3. 営業利益増減要因

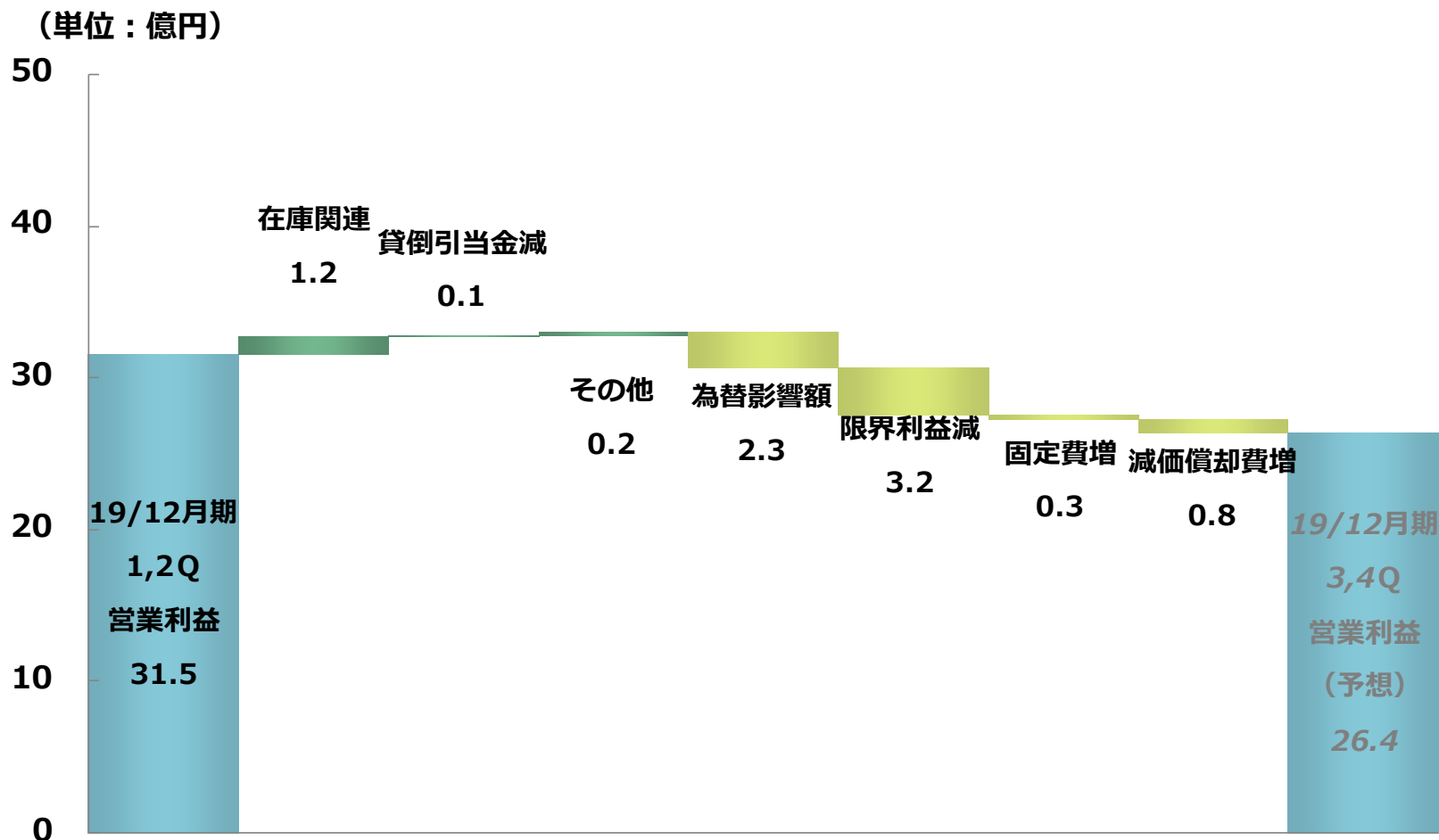
(2018年12月期2Q累計 vs2019年12月期2Q累計)

✓中国高温ガス炉の売上剥落と固定費増（主に人件費）が主因で減益
ただし中国案件除いた売上増分は限界利益にプラスに寄与



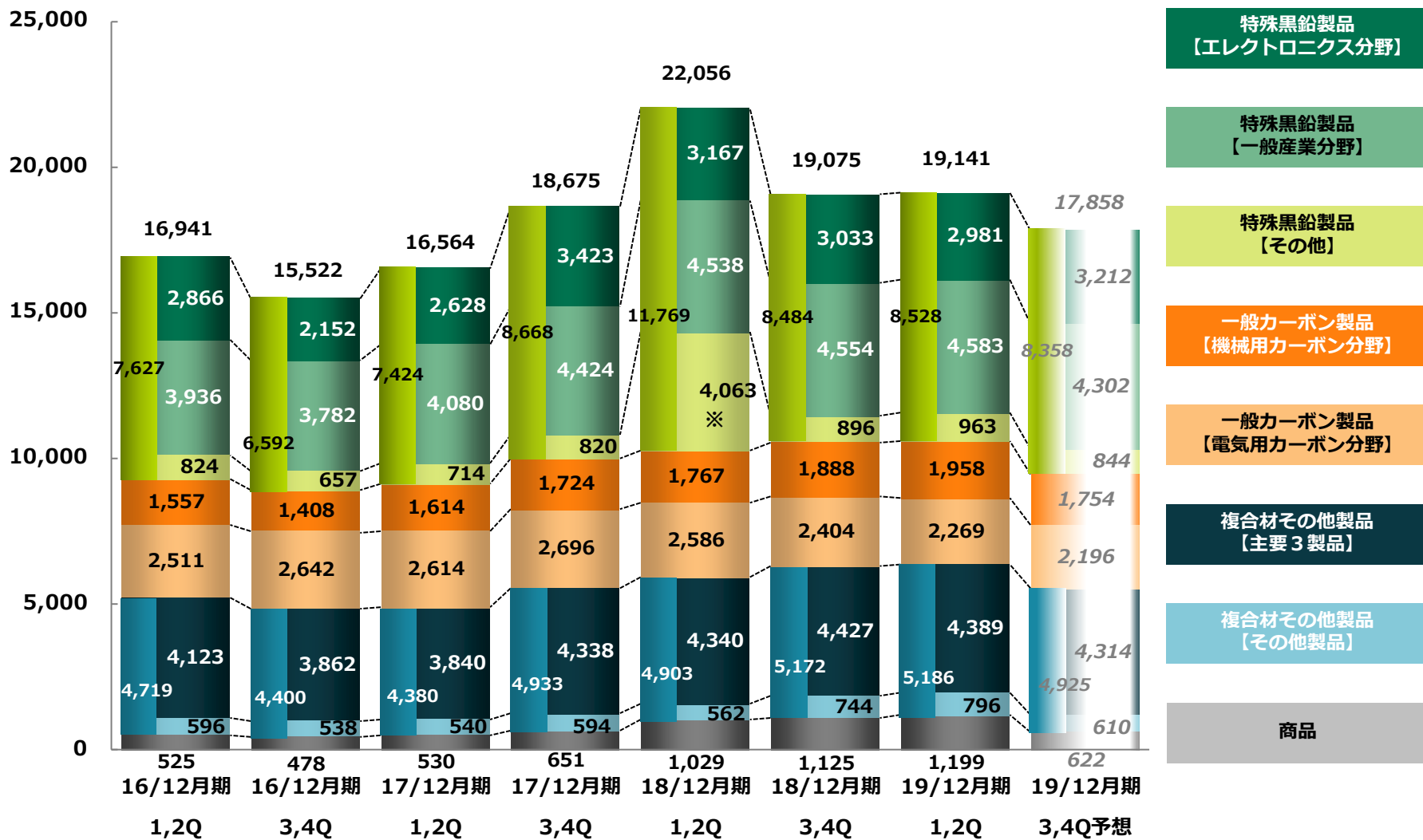
3. 営業利益増減要因 (2019年12月期1、2Q vs 3、4Q)

✓ 売上減による限界利益減少と下期円高影響により利益ダウン



4. 製品・分野別売上高

(単位：百万円)

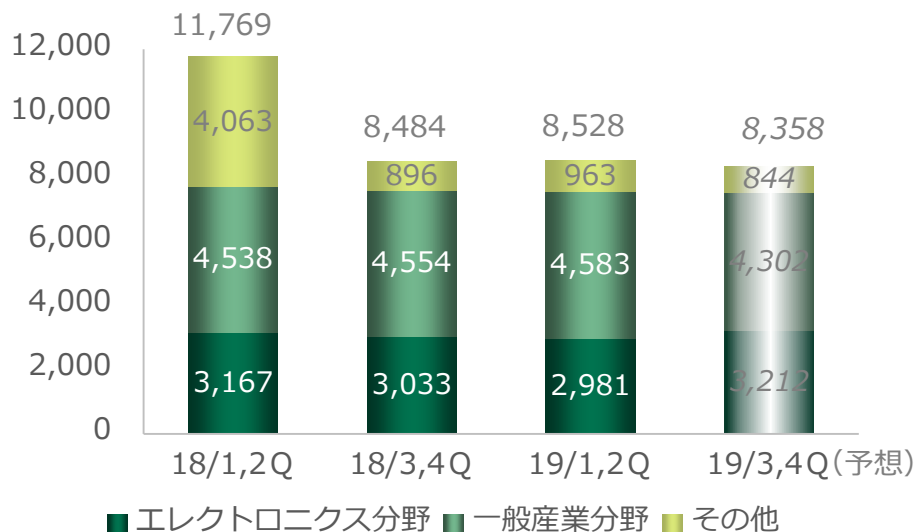


※2018年12月期1,2Qの特殊黒鉛製品 その他の売上高には、中国高温ガス炉 (HTR-PM)向けの売上高3,204百万円が含まれております。

4. 製品・分野別売上高のポイント①

<特殊黒鉛製品>

(単位：百万円)



ポイント

【エレクトロニクス分野】

単結晶シリコン製造用は、着実な需要と価格交渉も奏功し、上期は着地良好で、通期も前期を上回る見込み。ただし足元では、一部顧客において納期調整の要請が出はじめるなど、徐々に市況の騒りの影響も。太陽電池製造用は、中国の政策転換等の影響により前年同期比ダウンも、一時的に凍結していた設備投資が再開されるなど、下期にかけて市場は回復の兆し。ただし依然楽観視はできず、高採算品とバランスを取りながらの受注とする当社スタンスに変わりなし。

【一般産業分野】

放電加工電極用・連続鑄造用・工業炉用とも順調。第3四半期以降は、自動車の生産・販売台数低下や米中貿易摩擦の影響による半導体市場低迷により減速傾向に。アメリカでは工業炉をはじめとした拡販の取り組みが実を結び始めており、売上規模は小さいながらも着実に伸長。

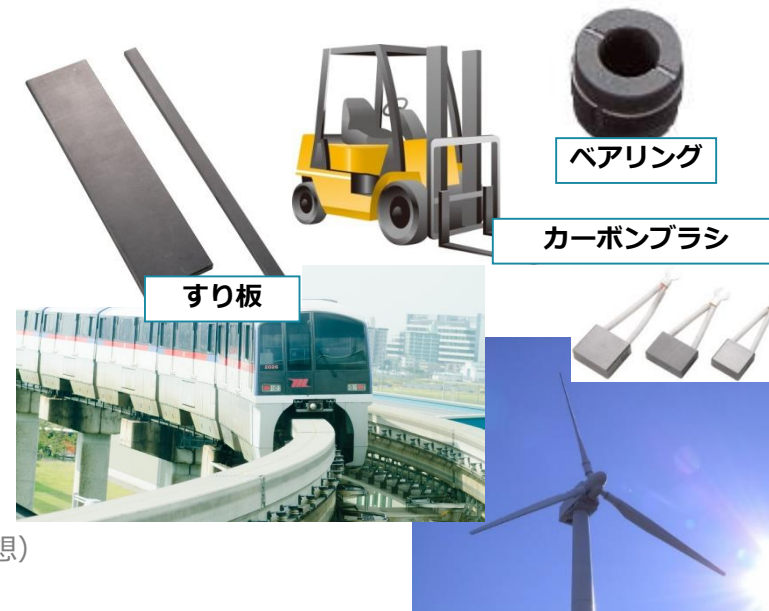
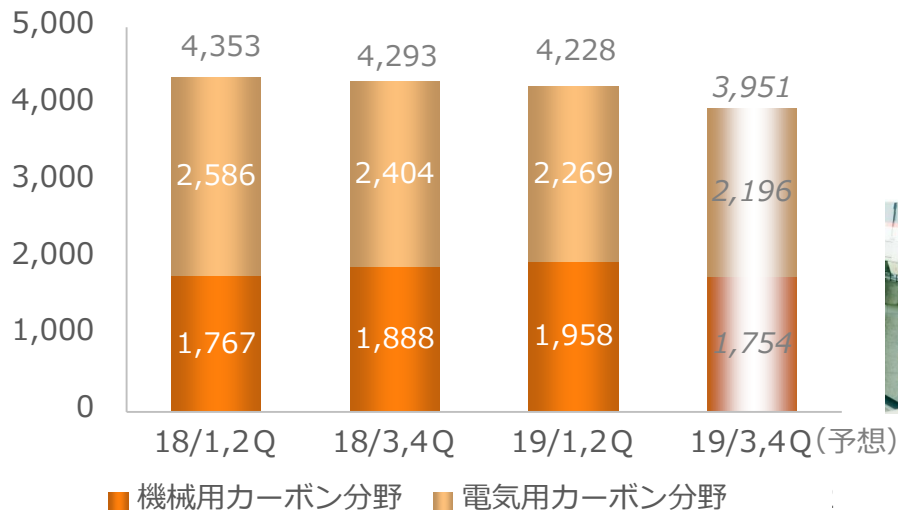
【その他】

前第1四半期において計上した、中国高温ガス炉（HTR-PM）向けの売上3,204百万円が剥落し、定常どおり。

4. 製品・分野別売上高のポイント②

<一般カーボン製品>

(単位：百万円)



ポイント

【機械用カーボン分野】

上期は、国内の軸受・シールリングなどの主力製品が全般的に堅調に推移。パンタグラフ用すり板も、海外新規案件の引合いが順調に増加するなど、拡販が着実に進展。国内私鉄各社への積極的なPR活動も継続中。老朽化設備更新とあわせ生産能力を増強し、旺盛な需要に備える。自動車用途の早期立ち上げに向けグループ一体となり取り組み推進中。

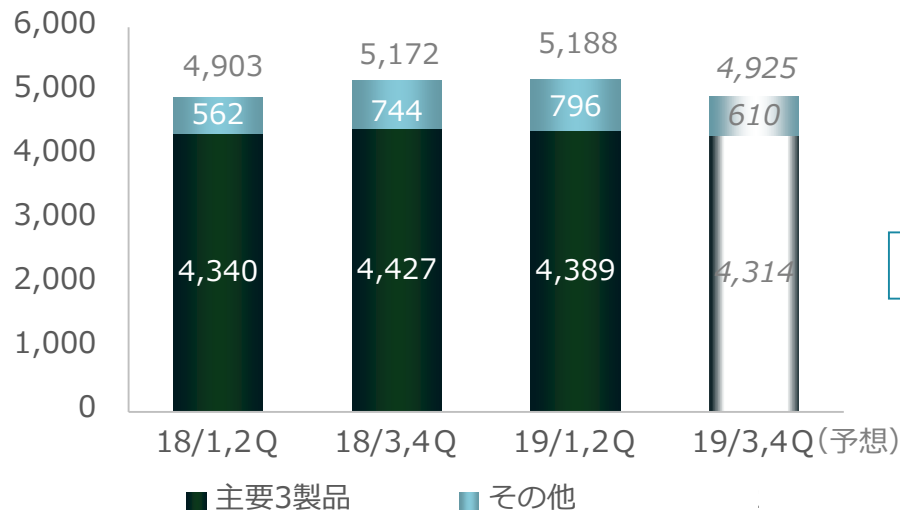
【電気用カーボン分野】

小型モーター用は、家電用（掃除機・洗濯機）・電動工具用ともにブラシレス化の流れが一層加速し苦戦中。中国ローカルメーカーをはじめとする安価品との競合に向けた対応策として、さらなるコストダウンや価格見直しによる収益改善、また顧客需要に対応した製販拠点の強化など、各種施策を講じてシェアの維持・拡大に注力。

4. 製品・分野別売上高のポイント③

<複合材その他製品>

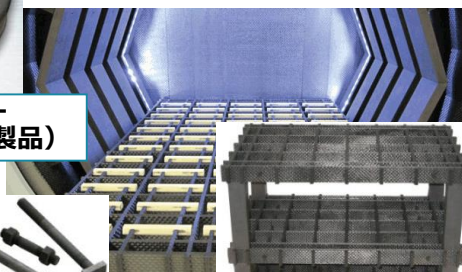
(単位：百万円)



MOCVDサセプター
(SiCコーティング黒鉛製品)



黒鉛シート製品



ボルト・ナット
(C/Cコンポジット製品)

三段トレイ
(C/Cコンポジット製品)

ポイント

【主要3製品】

SiCコーティング黒鉛製品は、半導体用が好調で上期は良好な着地。第2四半期以降、特にLED用が減速傾向にはあるものの、一時的な調整と見られ、パワーデバイス向けやLED用などいずれの用途においても、中長期的には伸びが見込まれる。

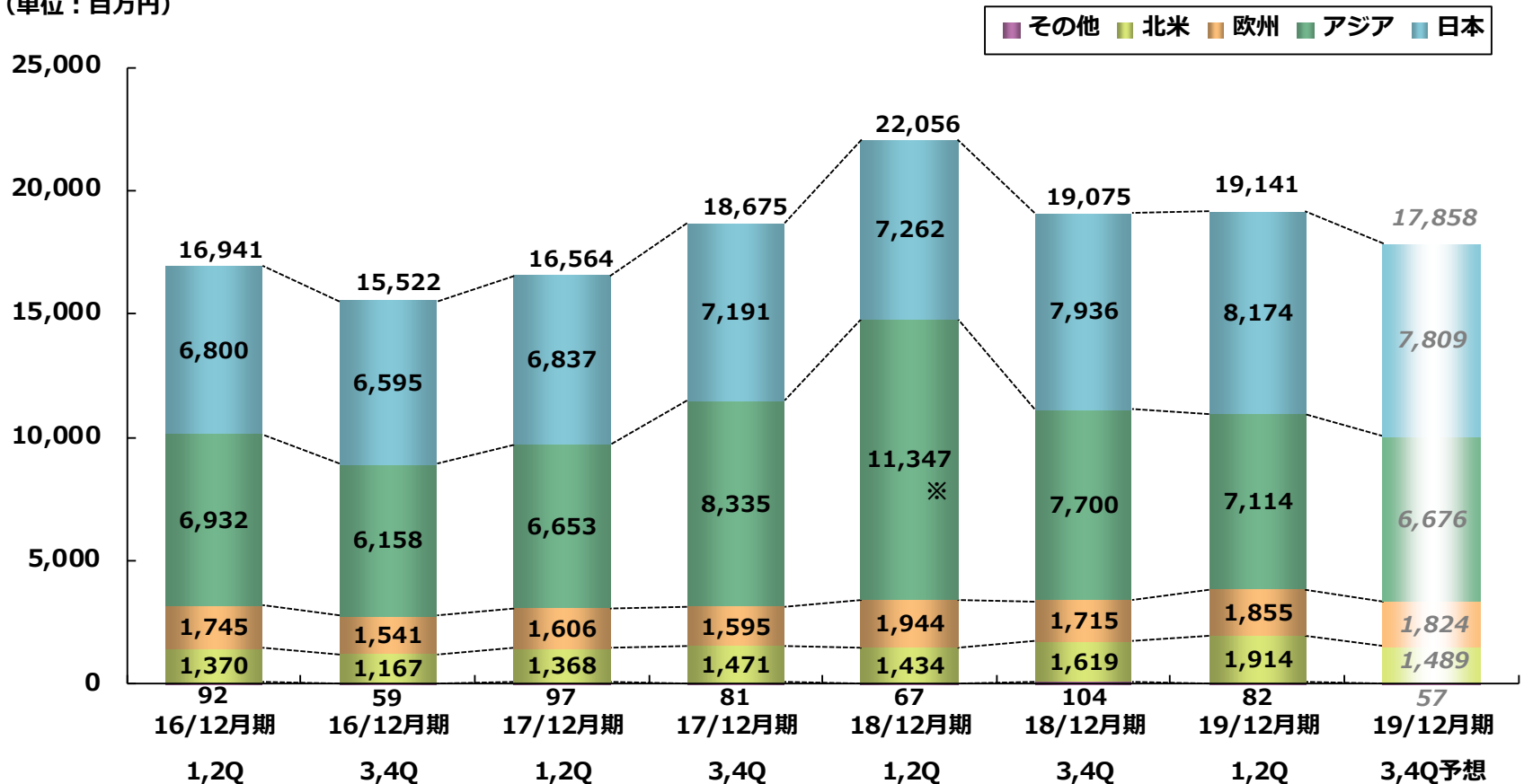
C/Cコンポジット製品は、太陽電池用（多結晶シリコン）の落ち込みを半導体用と工業炉用がカバーし前年同期並みを維持。通期でも前期並みの水準になる見込みで、順調に推移。

黒鉛シート製品は、冶金用・自動車用・エレクトロニクス用とも総じて低迷。新規用途開拓に注力。

5. 地域別売上高

- ✓ 太陽電池向け等中国不振でアジア低調も、日米欧は堅調に推移
- ✓ 下期は米中貿易摩擦や日韓輸出管理問題などの影響で、各地域軒並みダウン

(単位：百万円)



※ 2018年12月期1,2Qのアジアの売上高には、中国高温ガス炉 (HTR-PM)向けの売上高3,204百万円が含まれております。

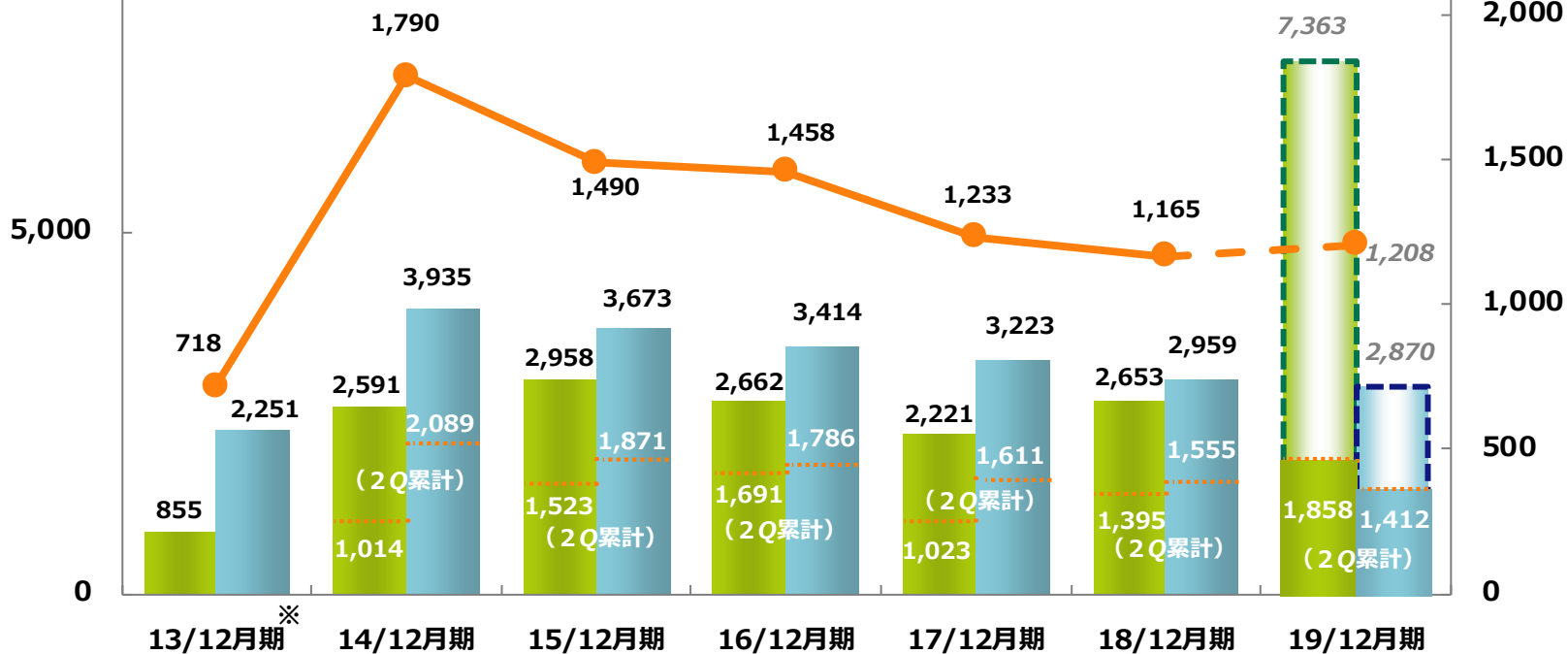
6. 設備投資・減価償却費・研究開発費

✓ 生産効率の向上・高付加価値化に向けた設備投資は、下期より本格的化

(単位：百万円)

10,000

■ 設備投資 (左軸) ■ 減価償却費 (左軸) ● 研究開発費 (右軸)



(単位：百万円)

2,500

2,000

1,500

1,000

500

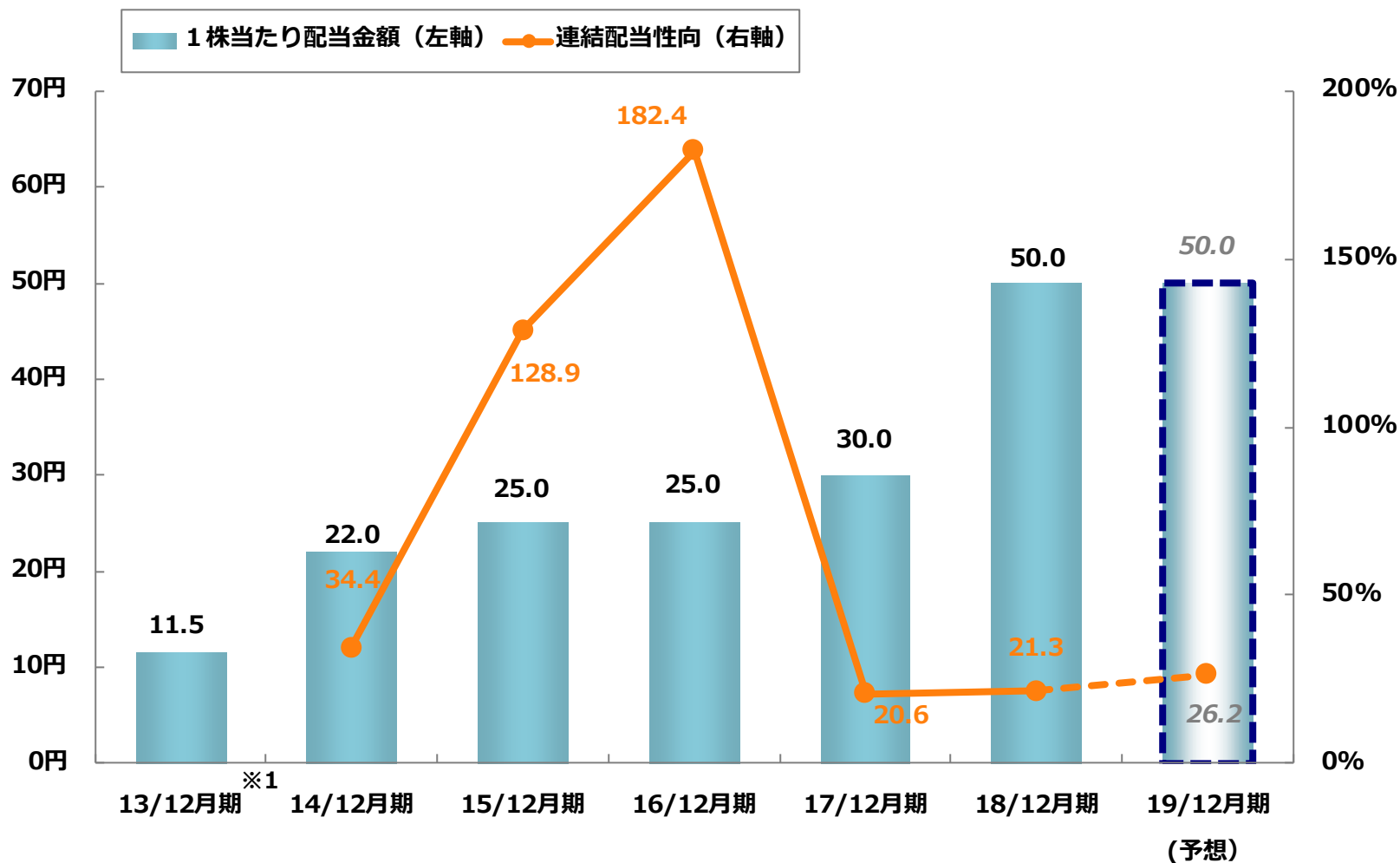
0

(予想)

※ 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。このため2013年12月期は7ヶ月（一部子会社は9か月）の変則決算となっております。

7. 株主還元

✓ 資本効率・戦略投資とのバランスを勘案しつつ株主還元を実施



※ 1. 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。このため2013年12月期は7ヶ月（一部子会社は9か月）の変則決算となっております。

※ 2. 2013年5月期および2013年12月期は当期純利益がマイナスであったため、連結配当性向については記載しておりません。

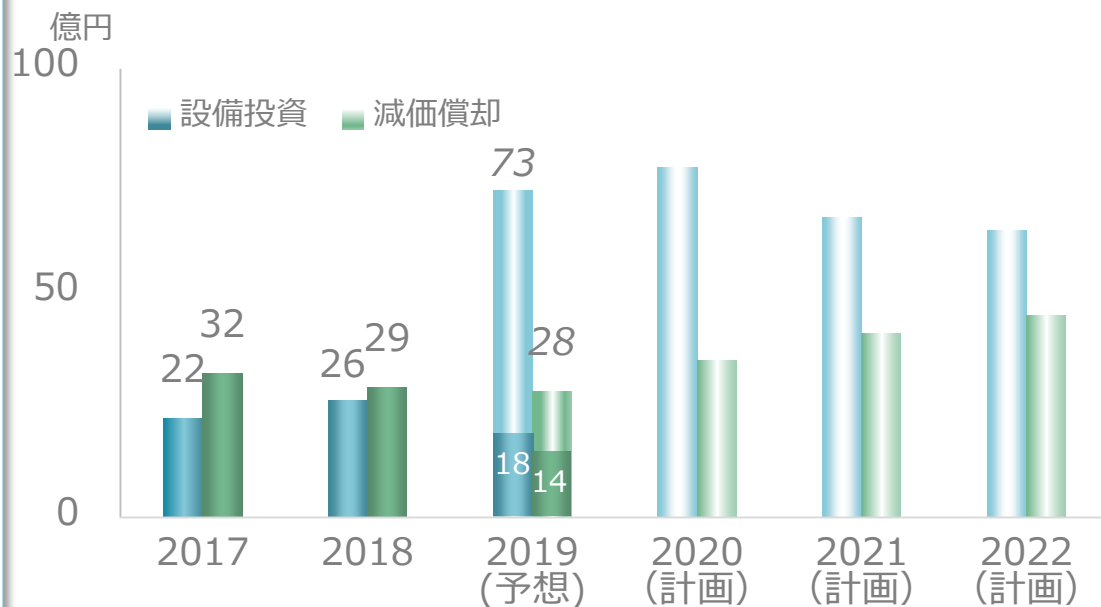
8. 連結貸借対照表および連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表	(単位：百万円)			連結キャッシュ・フロー 計算書	(単位：百万円)	
	18/6月末	18/12月末	19/6月末		18/12月期 2Q	19/12月期 2Q
資産合計	73,358	74,951	74,397	現金及び現金同等物 の四半期末残高	5,058	7,186
受取手形及び売掛金	14,934	15,274	13,797	現金及び現金同等物 の増減額	▲ 1,302	771
たな卸資産	13,963	14,686	15,100	現金及び現金同等物 の期首残高	6,361	6,414
有形固定資産	24,278	23,502	23,993	営業活動によるCF	2,751	3,233
負債・純資産合計	73,358	74,951	74,397	投資活動によるCF	▲ 2,847	▲ 1,219
有利子負債	645	505	491	財務活動によるCF	▲ 1,057	▲ 1,148
資本金	7,906	7,947	7,947			
純資産	62,835	64,096	64,877			
自己資本比率	84.6%	84.5%	86.3%			



成長への布石 将来を見据えた設備投資

設備投資額 300億円規模 (2018~2022年累計)



1. 半導体（ハイエンド領域）市場の拡大を取り込むための布石

2. シェアアップ®&付加価値向上に向けた加工能力の増強

3. 老朽化設備の更新&自動化による生産効率向上と省人化

1. 半導体（ハイエンド領域）市場の拡大を取り込むための布石

SiCコーティング黒鉛製品

生産能力増強投資 **31億円**



パワーデバイス（Si・SiC・GaNなど）やLEDの市場成長にともなうMOCVD装置・エピタキシャル成長装置向けの需要増に対応

能力1.5倍

- ✓ 次世代MOCVD装置への対応も可能
- ✓ 新設建屋は2020年完成
（一部装置は2019年稼働開始）



高純度化処理
能力増強投資

28.5億円

（日本20億円・中国8.5億円）

**アメリカ・ドイツ（現有）の能力もフル活用し
グローバルで供給体制を構築**

- ✓ 国内は能力増強・中国は新設で、稼働は2020年を予定
- ✓ 半導体の微細化などにより高純度黒鉛材料の需要増
純度レベルの要求も高まる傾向
- ✓ 次世代半導体・LED・光ファイバー向けなどの需要も
増加傾向

2. シェアアップ°&付加価値向上に向けた加工能力の増強

FACILITY



- ✓ 国内外子会社 (欧州・北米・アジア) の加工設備を順次増強中
- ✓ 複合加工機などの導入で合理化・効率化と加工コスト削減を実現 (省人化・24H稼働・ナイトシフト削減 etc…)

HUMAN SKILL

- ✓ 加工設備の増強に先行し人員確保&トレーニング実施
国内外、特に海外子会社の加工技術UPを図るべく本体よりエンジニアを派遣
- ✓ 大和田カーボン工業 (子会社) にものづくりセンターを設置 (7月)
2名の熟練加工技術者が専任で加工人材の育成/トレーニングを担う ノウハウを形式知として伝承する仕組みも構築

ハード (設備) ・ソフト (技術) の両面からの強化を図る

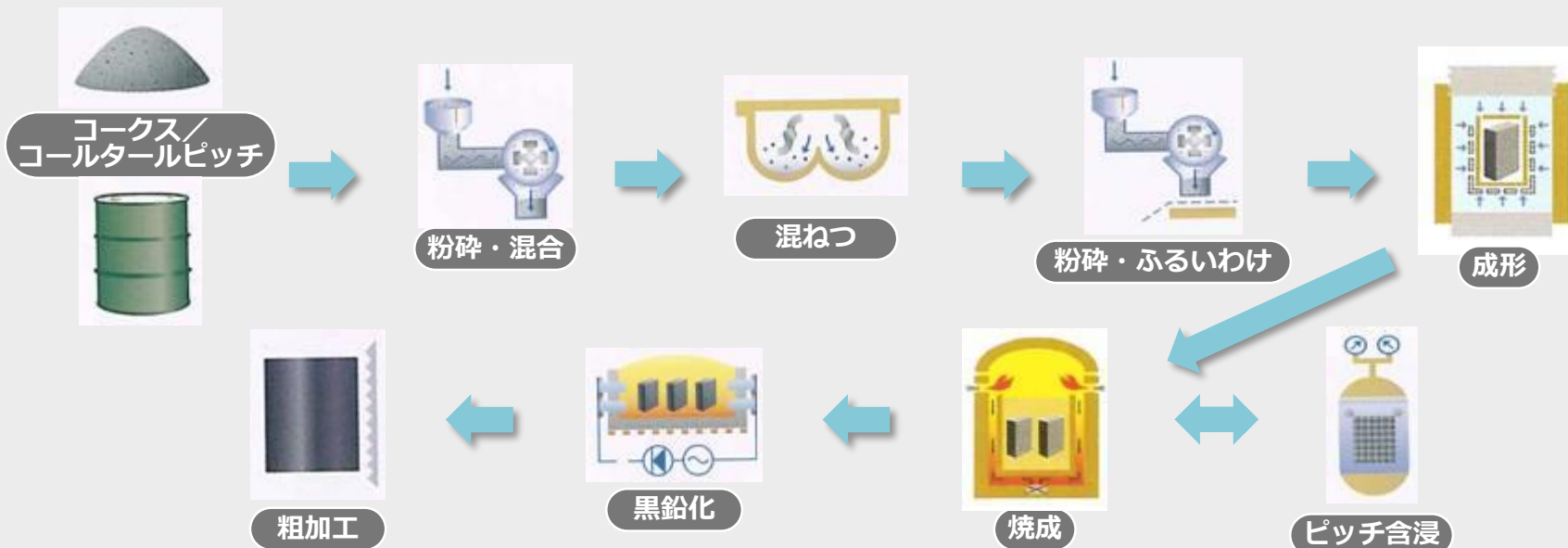
3. 老朽化設備の更新&自動化による生産効率向上と省人化

等方性黒鉛生産設備の 自動化・更新投資

38億円

(2019年7月現在決定分)

- ✓ 設備投資グランドデザインにもとづき2025年に**生産能力を1.3倍**（2019年比）に優先順位を考慮しながら今後も順次投資を決定
- ✓ 2019年7月時点での決定分は2019年～2021年にかけて稼働予定
- ✓ 環境対策としての省エネ効果も見込む（年間エネルギー使用量2.4%削減）





(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL : 06-6472-5811(代)

E-mail : ir@toyotanso.co.jp